

鹿大広報

No.154

Sep/2000

編集・発行
鹿児島大学
広報委員会



特集：“今、大学は”

<http://www.kagoshima-u.ac.jp/>

歯学部及び同附属病院での第三者評価

歯学部長 大工原 恭



歯学部及び同附属病院では、平成12年2月22日に6名の外部評価委員による第三者評価を実施した。第三者評価に我々が期待することは、これまでの内輪による自己点検・評価では到底気付かない、外部の専門家にして初めて指摘出来る適切な御助言を得ることである。しかし、我々が外部の方々に評価をいただくことは何分初めての経験であり、資料の準備から外部評価委員会の開催までいろいろ不十分なことも多く、委員の方々から充分な御意見、御提言をいただけたか、今はいささか心許なく感じているが、本学部での第三者評価に到った経緯と実施につき、前半は学部評価委員として、後半は学部長として携わった者として、以下その概要を御報告する。

鹿児島大学では、大学審議会から平成10年10月26日付で出された答申に基づき、第670回評議会（平成10年10月15日）において「第三者評価検討委員会」（委員長：林 征一水産学部教授）を評議会の小委員会として発足させることが決定され、学長から諮問された①第三者評価を本学に導入することの是非、②本学で第三者評価を行う際の実施体制の2点について同年12月から審議を開始した。歯学部からは、当時評議員であった私（大工原）が委員としてこれに参加した。

この小委員会での審議経過の中間報告を第420回歯学部教授会（平成11年2月17日）で行った私は、第三者評価も含めた歯学部の学部評価実施の是非について検討する学部評価準備委員会を発足させることを提言して承認された。その後、笠原学部長（当時）、歯学研究科運営委員長（北野教授）、および教育委員長（梶山教授）と協議の上、中島 秀喜、鳥居 光男の両教授に私を加えた3名の学部評価準備委員会で、今後の審議を進めることが第421回教授会（平成11年3月3日）で承認された。こうして発足した学部評価準備委員会では、学部評価の是非などを検討し、第423回教授会（平成11年4月7日）で、第三者評価も含めた本学部の学部評価を実施すべきであると報告して、教授会の了承を得た。また、学部評価準備委員会のメンバーが引き続き実施のための具体的な検討を行うことになり、学部評価委員会が発足した。学部評価の具体的な実施方法については、当時大学評議会で審議中の「鹿児島大学大学評価実施規則（案）」に準じて行うこととし、さらに

学部評価の対象と項目、実施時期、外部評価の体制、スケジュール等の概略について学部評価委員会で検討して、第425回教授会（平成11年5月19日）で報告、了承を得た。また、評議会で審議されていた「鹿児島大学大学評価実施規則」など外部評価関連の諸規則も、第678回評議会（平成11年6月3日）で一部修正の上可決されて、鹿児島大学全体の第三者評価体制も確立された。

歯学部の学部評価委員会では、評価項目についてさらに検討を進め、第426回教授会（平成11年6月2日）にその案を上程し、第427回教授会（平成11年6月16日）で承認された。これを受けて、学部評価委員会では評価項目の細目、執筆分担者、原稿作成上のフォーマットなどについてさらに審議し、8月5日付で各執筆者に学部評価資料の作成を依頼した。評価の対象期間は、前回の自己評価（歯科医学教育・研究への取り組み—研究活動の現状と課題一、平成5年3月刊）以降とし、原則的には平成5年以降の資料をまとめることとしたが、卒業生の現況、学位取得者の現況など長期のスパンで評価すべきものについては、学部、研究科発足以来のものをまとめることとした。なお、原稿締切は9月18日とし、原稿はすべてフロッピーディスクで提出していただいた。

この間、歯学部附属病院でも第三者による外部評価を実施すべきであるとの機運が高まり、井上 昌一病院長（当時）と、歯学部附属病院自己点検・評価委員会（委員長：野井倉 武憲教授）が中心となって外部評価を受けるための資料作成が鋭意進められ、時間的には少し先に進んでいた学部の第三者評価と同時に、第三者評価を受ける体制を整えられた。

外部評価の実施体制と外部評価委員については、学部評価委員会発足以来検討を重ねて来たが、その結果については第432回教授会（平成11年10月6日）で大筋の合意を得、その後各委員候補者の御内諾を得る作業を進めて、第434回教授会（平成11年11月10日）で歯学、医学の現役大学人3名のほかに、教育学、医療行政、及び地域社会の代表の方々計6名の下記外部評価委員が正式に承認された。

加藤 伊八 氏（長崎大学歯学部 歯科保存学第2講座教授、元長崎大学歯学部長）

北元 静也 氏（南日本新聞論説委員長）

島田 俊秀 氏（放送学園大学鹿児島学習センター長）
南嶋 洋一 氏（宮崎医科大学副学長、ウイルス学）
矢島 鉄也 氏（鹿児島県保健福祉部長）
山本 健二 氏（九州大学歯学部 歯科薬理学講座教授）

（50音順）

上記外部評価委員には、丁度刊行された「歯科医学教育・研究への取り組み—外部評価資料—」（平成11年11月刊、鹿児島大学歯学部、同大学院歯学研究科）、及び「鹿児島大学歯学部附属病院の現状と課題」（平成11年11月刊、鹿児島大学歯学部附属病院）のほか関係資料をお送りし、さらに御要望のあった委員には、本学部の規則や学位の授与規定などをもお送りして、外部評価の準備をしていただいた。

平成12年2月22日に、外部評価委員会を歯学部、大学院歯学研究科、及び歯学部附属病院の合同で開催した。当日は、午前中を施設の実地視察、午後を外部評価委員と本学部教官との質疑応答形式による会議を行い、外部評価委員それぞれのお立場から我々が行っている教育、研究、診療活動に対し貴重な御意見、御提言をいただいた。またその後、それぞれの委員に評価レポートをまとめていただき、会議録と共に「外部評価報告書」として平成12年6月に刊行した。

こうして、本学部（歯学研究科、附属病院を含む）の外部評価をひとまず終了出来たことは、ひとえに外部評価委員をお引き受けいただきました委員の方々の御協力と御理解の賜と、まず厚く御礼申し上げたい。委員の方々には、本来のお仕事がお忙しい中を、実地視察と質疑応答のため1日以上のお

時間をさいていただき、また評価に際しては、我々の教育、研究、診療活動に対し、暖かいエールを送っていただいたことに、本学部及び附属病院の教職員を代表して、深く感謝する次第である。

今後は、教育、研究、診療のほか、管理運営など種々の項目について外部評価委員から頂いた多くの御指摘、御提言について、これから学内で逐一真剣に検討し、実行すべきものは直ちに実現、あるいは実現に向けての検討を開始することが、我々に課せられた責務と考えている。次回に外部評価をいただく時には、今回外部評価委員の方々から頂戴した貴重な御指摘、御提言の多くが実行、実現されているよう、今後学部及び附属病院の構成員と共に、いっそうの努力を重ねる所存である。

社会改革の大きなうねりの中で大学も大きな改革が必要であるが、一方我々歯学部の基本的な使命が、教育、研究、診療の三本柱であることは、今後も変わりはないであろう。我々は、この大学の本来の使命を見失うことなく、本学部及び附属病院の改革を進めたいと考えている。今後とも、我々歯学部に対する皆様方の暖かい御支援をお願い申し上げたい。

最後になったが、毎日の教育、研究、診療に御多忙の中を、学部評価資料の作成に御協力下さった学部及び附属病院内各位に厚く御礼申し上げると共に、種々の統計資料作成に御協力下さった学生係、第三者評価実施に際して細かいところまで種々配慮をして下さった庶務係のほか、事務部の方々全員に感謝する。



外部評価委員による施設視察



現地視察後の質疑応答

追記：「歯科医学教育・研究への取り組み—外部評価資料—」（平成11年11月刊、鹿児島大学歯学部、同大学院歯学研究科）、「鹿児島大学歯学部附属病院の現状と課題」（平成11年11月刊、鹿児島大学歯学部附属病院）、及び「鹿児島大学歯学部、大学院歯学研究科、歯学部附属病院 外部評価報告書」（平成12年6月刊）を御希望の方は、歯学部庶務係（890-8544 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35-1、電話099-275-6015）にお申し込み下さい。

研究室紹介

歯周病学のプロを目指して !!

歯学部 歯科保存学講座 (2) (歯周病治療科) 和泉 雄一

当講座は、昭和55年4月に末田 武教授が開講されました。平成11年8月より私が後任として講座を担当し、現在、総勢20名で歯周病学の教育、研究および診療を行っています。

歯周治療は、診査・診断の後、ブラークコントロール、スケーリング・ルートプレーニングを主とした基本治療と、必要に応じて歯周外科を行います。その中には、全国11国立大学歯学部附属病院の中で初めて高度先進医療として承認を受けたGTR (歯周組織再生誘導) 法も含まれています。従って、主な臨床的研究としては、GTR法、インプラント、成長因子を用いた再生療法の基礎実験および動物実験、さらに、歯肉溝滲出液中の成分分析を指標にした病態解析等を行っています。平成10年10月から口臭専門外来を開設し、口臭の主な原因である硫黄化合物をGas Chromatographyを用いて数値化し、診断を行っています。最近、口臭を気にする人が増加しており、客観的なデータによる診断を行うことで、患者さんの悩みの解消に貢献できると考えています。

基礎的研究としては、歯周病原性細菌の菌体間相互作用、歯肉線維芽細胞におけるサイトカインネットワーク、再生療法に不可欠な歯根膜細胞や、上皮として非常にユニークな性質を持っている接合上皮や歯肉上皮細胞の生物学的特性について、検索を行なっています。

最近、ヘルスケアにおける口腔と全身との関連性が解明されてきており、歯周病が心臓疾患、糖尿病、呼吸器疾患といった一般的な全身疾患に強く関係があることが明らかになりました。歯周病を克服することが21世紀の歯科医療を発展させるキーポイントであると確信して日々の研究に取り組んでいます。



明石研究室 基礎研究と工学的応用展開

工学部 応用化学工学科 明石 満

工学部に博士後期課程が完成し格差が大幅に縮小したと思ったら、他大学は大学院重点化あるいは少なくとも独立専攻が設置されて、置いてけぼりを食ってしまった。独立行政法人化も目前である。状況は四面楚歌かと言えばそうではない。大学の研究というもの、我々プロの研究者とプロを目指す学生諸君のお互いの気持ちの持ちようで結構なレベルのことが出来るようである。税金から給料も基本的な研究費もいただいている限り、最低限5年10年の活動をオープンにするのが責任、また、分かり易く社会に示すことが重要と思って新聞等にも取り上げてもらえるように“公開”に努力してきた。機能性高分子の分野で研究を行っているが、医学部の馬場教授、丸山教授、あるいは他大学の先生方との共同研究を中心に誌上に流して来た。分かり易いのは応用展開、結果や将来展望をしっかりと見せることであろう。確かに生き抜くための戦略としても機能している。本来工学とはこういう分野であると言ってしまえば良い訳けだが、遠い将来を考えると、これだけでは砂上に楼閣を築くようなものと考えている。10数年間の努力の結果、研究活動に支障ないだけの研究費を獲得し、衣食足りて礼節を知ったのかもしれないが、学生・院生諸君には基礎研究の重要性、基礎学力の充実を一貫して最も大切なこととして示してきた。お陰様で、研究室の諸君、皆よく勉強し将来に備えて腕を磨いてくれる。例えマスコミを賑わすような成果が出ても、共に喜びはすれ浮かれてはならないようである。最新の英文論文紹介、勉強会、実験検討会、皆、真剣である。スタッフと学生諸君に深く感謝している。

